

メキシコ ハリスコ州のアボカド輸出の半分は米国向けに

FreshFruitProtal 2023年5月8日

北米自由貿易協定(NAFTA)が世界最大のアボカド生産国であるメキシコから米国へのアボカドの輸入に扉を開いてから29年後、2022年6月28日にハリスコ州産のアボカドが初めて米国市場に参入した。

ハリスコ州アボカド輸出生産者協会(APEAJAL)の事務局長であるアルマンド・ガルシア・アングロ氏は、先週イタリアで開催されたマックフルーツ見本市での本サイトとの会話の中で、「2021年12月に米国とメキシコの間でハスアボカドの輸入に関する実施計画が改定されてハリスコ州が米国市場に参入するようになったが、その前は、同州は3つの主要市場に輸出していた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「ヨーロッパが我々のアボカドの約30%、日本が31%、カナダが33%を占め、合計で約11万5千トンのアボカドが3か国・地域に分けられていた。」同氏は、しかし、米国市場の開放により、総輸出量の50%が米国向けになり、カナダと日本のシェアは約19%に、ヨーロッパへの輸出は約8%と大幅に減少したと述べた。

「コロナ禍に伴う輸送時間とコストの両方についての物流上の問題のために、ヨーロッパ向けの輸出は減少した。この問題が到着時の果実の品質や価格に影響を与えることもあったため、ハリスコ州の輸出業者らは、リスクが少ない米国市場により多くの果実を割り当てることを決定した。」米国市場向けでは、果実の輸送時間は24時間未満であるが、ヨーロッパ市場向けの輸送には最大25日かかる場合がある。米国の一人当たりのアボカド消費量はヨーロッパの2倍である。

マックフルーツ2023に参加することの重要性

「我々は2つの目的でこの農業見本市に来ている。まず、イタリアのアボカドの市場がどうであるか、輸出業者は誰か、どのくらいのアボカドが消費されているか、そして価格はどうかを知りたい。ハリスコ州産アボカドの潜在的な顧客も探している。」ヨーロッパ市場ではペルー産が支配的であるが、その量は10月から1月の間にはそれほど多くないため、ガルシア氏は年末の時期にメキシコ産アボカドのチャンスを見出している。ヨーロッパへの輸入に関する他の大きな課題は、当局が要求する制限や許認可が多いことである。したがって、米国市場は輸出業者にとってより扱いやすい。

米国におけるハリスコ州産アボカド

ガルシア氏によると、米国にはまだメキシコ産アボカドの潜在的な巨大市場がある。ミチョアカン州(メキシコの主要産地)の出荷の開始は7月で、通常5月から7月の間は米国市場に供給するのに十分なメキシコ産アボカドの量がないため、ハリスコ州産のアボカドはこれの補完になる。したがって、新しい輸出産地は、メキシコ産アボカドが米国で一年中消費されるよう、端境期を埋めることを意図している。

米国市場の重要性にもかかわらず、メキシコの生産者らはインド、韓国、中国、さらにはチリなどに新しい市場を拡大できるよう、作物生産の効率性を改善することに注力している。

社会的責任

持続可能性は今年の見本市で最も話題になったトピックの1つであり、ガルシア氏は気候変動の影響を緩和し、適応することの重要性を強調した。「近い将来、アボカドの産地は生産に適した気候条件にない可能性があり、それが世界中のアボカド産地の再編につながるだろう。我々はすでに、荒天から果樹と果実を保護するための技術に取り組んでいる。」

APEAJALは、産地の森林保全にも取り組んでいる。

それとは別に、同団体は責任ある雇用について生産者を評価しており、現場に児童労働や強制労働がないこと、また労働条件がすべての労働者にとって良好であることを確保している。